



「古屋まさお」とともに歩む

友雅会ニュース

発行元：友雅会

〒405-0007
山梨県山梨市七日市場816-7
TEL&FAX 0553-23-6688

発行責任者：古屋 雅夫

「朝晩寒くなっています。
お体を大事にお過ごし下さい」

9月定例議会

新事業への課題と協働のまちづくり事業 推進等に対して質問・提言



市長の提案理由の説明に聞き入る「古屋まさお」市議

平成21年第3回定例市議会が、さる9月2日～30日において開催され、その内容は、①20年度山梨市一般会計、特別会計決算審査、②自転車等の放置の防止条例、山梨市交流センター管理条例制定、③一部条例改正、④補正予算2億4,540万の追加、⑤山梨・日川小、北中の耐震補強建築請負費の変更契約等が議事として扱われた。

「古屋まさお」市議は今回も本会議で一般質問を行うとともに、建設経済常任委員会、決算特別委員会においても積極的に発言を行なった。

決算特別委員会 審議内容(メモ)

以下について現状報告および対策を求めた。(記載事項は主な点)

- 定額給付金給付率99.38% (9月17日) 未申請者238人
- 指名競争入札件数約350件、市内業者入札率約72%
- 市営住宅全体の約2割の空き部屋を募集していない理由と対策。
(市)木造住宅は築50年経過のものもあり募集はしていない「住宅長寿命化計画等」の策定を含め検討する。
- 下水道事業の進捗状況(行政人口に対し) 山梨地域46.5%、牧丘地域33.2%、三富は公共下水が無いため0%
全体計画に対する整備状況は市全体で49.9%
- 給食費の未済額113万円。小学校35.1万円、中学校77.9万円
- 「三富・すもも平スポーツ広場」の総経費と過疎債以外の補助内容。
総経費8億6,916万円余、過疎対策債以外に電源立地交付金、環境型社会形成推進交付金を活用してきた。
「決算特別委員会審議内容」の続き
- 不納欠損額・平成20年度は前年対比固定資産税約2.5倍、都市計画税約2.9倍増の理由。

(裏面へ続く)

平成20年度一般会計決算等を議決 今後も財政運営を注視していく

平成20年度の山梨市の決算状況及び健全化状況は、以下の通りである。

財政健全化について国が定める地方公共団体は財政健全化法により4つの健全化比率が定義されており、それを越えたと「財政健全化計画」を策定しなければならない。またその計画が著しく困難な場合は総務大臣又は知事から勧告を受けることになっている。

山梨市の平成20年度の財政状況は概ね良好とされているが、平成23年度から市債の返済が始まり、今後も健全財政運営に向け注視していく必要がある。

[H20年度財政健全法に基づく山梨市の状況]

- 1) 実質赤字率・一般会計などに占める赤字の割合-3.23% (黒字)
(13.34%)
- 2) 連結実質赤字比率・公営企業も含めた赤字の割合-9.31% (黒字)
(18.34%)
- 3) 実質公債費比率・借金の負担を示す比率15%
(25%以上)
- 4) 今後の負担割合である将来負担率175.1% (350%)

※ () は早期健全化の基準

平成20年度収支山梨市一般会計歳入・歳出の状況(一部)

	平成20年度歳入	平成20年度歳出	実質収支額
一般会計	182億5,595万円余	177億6,329万円余	3億3,091万円余
市税収入	41億7,962万円余	(予算比3.4%増)	(対前年比1.6%増)
地方債	一般会計の借入額は7億8,900万円増、残高は234億400万円余		

「決算特別委員会審議内容」の続き
(市) 高額滞納(会社等閉鎖)があり、
調査等を行ったが執行停止すべきと判

断、都市計画税も同様。
●一部予算科目に多額の不要額が見受
けられる。見積もり、積算を十分精査

し、少額とすべき。
●民間土地借用契約は地価の変動を考
慮した契約内容に見直すべき。

9月議会「古屋まさお」市議一般質問要旨

1、フィールドミュージアム構想の推進について

フィールドミュージアム構想(地域資源等を展示物と見たて地域全体を「野外博物館」)は合併後平成19年に策定されたが、各種取り組みが行われているが市民の盛り上がり関心が今ひとつ少ないとの感も歪めないと思う。各地域ごとに、より丁寧な取り組みによる気風、体制づくりが必要。「市の受け止めと今後の事業推進」の考え方を求める。

(市) 本構想は何かを新しく作るのではなく、普段なにげなく見過ごしている、地域資源を再発見して活用すること、記録に残し次世代に継承してもらうことが目的である。一例では根津記念館はフィールドミュージアム事業の核施設として山梨市の魅力を多くの皆様に発信してもらおう。また朝日新聞社主催の日本の里百選(牧丘・八幡地区)に選定された。巨峰の丘マラソン大会・巨峰の産地・景観の良さなどPRもその一環である。

また、一般的には公民館活動だけがフィールドミュージアム活動と受け取られるが、市が取り組んでいる各事業にもその精神の根底がある。また、さまざまな公民館事業を通じ、地域の自然・文化・産業等を理解し自分が住む地域に誇りをもっていたきたい。しかしフィールドミュージアム活動に対しての地域や公民館により考えに差があることも事実。昨年設置したフィールドミュージアム構想推進委員会において情報交換を行い、全地域での足並みが揃うよう構想の推進と地区公民館への支援を行う。また第2段階の成長期に備え、基本計画の策定と、協働のまちづくりとなるよう地区公民館と協力して取り組む。

2、ジオパーク構想を踏まえた乙女湖上流地域・乙女鉦山跡地等の観光開発・整備の具体化について求めた。

(市) 1) 乙女鉦山跡地をジオパーク(地球科学的に見て貴重な特徴を持つ地域を含む自然公園)構想の拠点とし、市内の地質観光の推進を目指す。山岳観光の拠点を乙女湖とし、道路整備もされたが、大池峠では紅葉シーズンを迎えると駐車場も無くなるほど混雑している。今後は駐車場・ロータリーの設置が必要と考え、国、県へ要望する。また民間団体等による山岳案内、シャトルバス送迎もPRしていく。

2) ジオパーク構想に向けた乙女鉦山跡地活用の整備等であるが、今は乙女湖から1.9キロ先の六本楯峠から2.2キロ荒川方面に向かうと乙女鉦山跡地・現在は県所有であり路面崩壊で一般車両は進入禁止である。したがって舗装による一般車両が入るようにすることが急務。また鉦山内も危険な状況であるので坑道の保護、遊歩道設置、防護策等が必要となるため県との協議を重ねる。

特に整備のための財政問題が重要、経費算出のため、この秋整備計画等の内容を含め調査したい。

また、ジオパーク検討委員会から推進委員会へ移行し、組織

の充実(17名に地元NPO等の団体を加える)により本事業の推進に向けた具体化を目指す。

3、私有林(牧丘ゴルフ場跡地)の活用計画の具体化について

野背坂線の開通等による人の交流も期待されることから、環境を意識した「企業の森づくり」「記念樹の森」など付加価値を付けた取り組みによる、地域の経済効果なども視野に入れた事業展開を目指すべき。

事業の工期等及び整備事業における交流・連帯・協働の考え方を求める。

(市) 1) 跡地80haのうち市道を挟んだ東側約4割を遊歩道設置及び植栽を行い「市民の憩いの場」として事業を行う。

2) 第一段階は本年度から22年度にかけ用地測量、境界確認、権利調査等、民有地の集約、植栽敵地の確認、遊歩道設置に向けた調査を始めた。平成23年度に具体的設計を行う。

3) 第2段階として平成24年度以降具体的な整備及び、民有地の集約等を行う。実施にあたっては都市住民・児童・生徒による植樹体験・イベント等、企業等による植栽など協働による100万本植樹運動や植樹祭会場として、市民・県民の参加による整備を行う。NPO法人、地域住民等による協働の地域づくりに取り組む。

(4) 将来ビジョンは、平成26年度の野背坂線完成予定によるフルーツラインの全線開通となることにより、観光スポットとして地元地域への活性化が期待できる。

企業の森林整備活動の誘致による社会貢献活動の場及び交流の場として地元地域への経済効果も視野に入れ検討したい。

地元の堀之内跡地検討委員会に「県立かえで支援学校・分校」

4、元堀之内小跡地利活用の具体化に向け県教委、県議会等への対応と今後の展望

としての活用案を示し、同検討委員会の理解を踏まえ、8月26日に県教育委員会、県議会等に陳情したとのこと、その後状況と今後の対応策を求める。

(市) 地区の意見とし生涯学習の場、高齢者を対象とした施設の場等100を越える利活用案が出された、また「県立かえで支援学校」(以下支援学校)の父兄からは遠距離通勤等から「支援学校」の誘致の要望もあった。このような状況の中で7月22日、支援学校誘致案に絞込み要望書提出に向けて検討委員会の合意を取り付け、県教育委員会等に要望書提出をした。松土・県教育長は「支援学校は昨年増築をし、施設は十分であると考えるが、将来のこともあるので、要望について誠意を持って検討したい」との回答があった。今後は県特別支援教育振興審議会で検討して頂けると思うが、さらに働きかけをしていく。

※ 字数が多く見づらくてすみません。

◀ 地域活動 ▶

住民参加のまちづくり
七日子神社お祭り盛大に行われる

10月11日(日)に七日市場・七日子神社の祭典が七友会、七姫会、育成会等実行委員会の協力により盛大に行われ、地域が活気ついた1日となった。「古屋まさお」も七友会の一員として神輿を担ぐなど一連の行事に参加した。

子供の健全育成、食育等を目的に開催しているNPO主催の「さつま芋掘り・焼きいも大会」に、今年も参加した。天候不順で芋の成長が心配されていたが、最高の出来。大きいもの

秋の収穫・さつま芋掘り
地域・都会の仲間と楽しむ

は2キロを越す大きいものが収穫され焚き火で焼き芋を行い、地域住民・子供・都会からの仲間達と交流を図った。

